
ご機嫌斜め

如月乙姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ご機嫌斜め

【Nコード】

N8587D

【作者名】

如月乙姫

【あらすじ】

秀一×ジョーディの小説です。なんだか機嫌の悪いジョーディ…秀一が聴いても返って来るのは素っ気無い答えだけで……ジョーディの機嫌が悪い理由とは??

「どうした、ジヨディ」

秀一はジヨディに訊いた。

「別に」

ジヨディはそうとだけ答えて去って行った。

（随分、機嫌が悪いな）

秀一は密かに思った。

それから数時間。

「ジヨディ……」

「あら……秀一^{シュウ}」

やはり、ご機嫌斜め。

「なんでご機嫌斜めなんだ??」

ジヨディの形のいい眉がつり上がる。

「なんで??…自分で考えてみたらあ??」

ご機嫌悪化。

（なんだ…俺、何かしたか??）

秀一は内心かなり焦っていた。

「私、仕事が残ってるから戻るわよ」

ジヨディは素っ気無く言うて行ってしまった。

そして、秀一の頭の中にある可能性が浮かんた。

（…あの事が!…!）

実は一週間前…

出掛けようと約束していたのだが、秀一の仕事でなくなってしまうのだ。

（考えてみれば、ジヨディの機嫌が悪くなったのはその後からだしな）

原因が分かれば後は策を立てるだけだ。

「ジョディ…この前の事だろ??…怒ってるのは」

秀一が言くと、ジョディはゆっくり振り返った。

「違うわよ」

ジョディは理由を話した。

実は四日前、秀一は仕事の関係で女性捜査官と話しをしていた。たまたま、ジョディがそれを目にしたのだ。

「それで…なんか…苛々して…秀一^{シュウ}に八当たりって言つか…」
ジョディは口ごもる。

秀一はジョディの額にデコピンを喰らわせた。

「嫉妬したのか」

秀一は笑った。

「嬉しいな…」

ジョディは顔を上げた。

「お前が嫉妬したんだ…俺が他の女と話してただけでな」

「私以外の女と話すなって訳じゃないわよ」

ジョディはそっぽを向く。

「そう言う事だろ」

秀一は悪戯っぽく笑う。

ジョディは顔を真っ赤にしていた。

「う、うるさいわよ、秀一^{シュウ}」

秀一はジョディを抱き寄せてキスをする。

「秀一^{シュウ}って結構キザよね」

「なんだと」

秀一はもう一発デコピンを喰らわせた。

「痛いじゃない!!」

ジョディはそう言った。

その後、抱き合ったままで笑い合った。

数分後、ジェイムズが入って来て二人は慌てて離れるのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8587d/>

ご機嫌斜め

2010年10月14日14時59分発行